

# 研究の窓

## 夢を追い続けることが、 自分の可能性を広げる 大きな力になる。

「自分から行動しなくては、何も変わらない」。そう学生たちに強く伝えていた上原先生。学生一人ひとりが自ら考え、行動し、達成感や自信を掴み取るためのきっかけづくりを注いでいます。そのひとつが、学外のコンテストへの挑戦を見据えたビジネスプランの提案。金融業界の第1線で活躍した経歴をお持ちの上原先生は、実社会と学生たちをつなぎ、彼らの主体性を大きく伸ばしながら、10年先、20年先にも力となる社会人としての礎を大切に育てています。「夢を持って」と語りかけ、学生たちの成長を厳しくもあたたかく見守る、そのまなざしの根底にある思いを語っていただきました。



ビジネス学部 ビジネス学科 教授

## 上原 衛

### 【学歴】

1980年3月 早稲田大学理工学部工業経営学科卒業  
1982年3月 早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻工業経営学専門分野博士前期課程修了  
2011年9月 早稲田大学大学院創造理工学研究科経営システム工学専攻博士後期課程修了

### 【学位】

早稲田大学大学院創造理工学研究科 博士(工学) 学位論文「CSR活動項目の重要度の推定に関する研究」

### 【職歴】

1981年4月 株式会社東京銀行入行  
1996年4月 株式会社東京三菱銀行(合併に伴う)  
2003年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部 ビジネスコミュニケーション学科 助教授  
2004年4月 愛知淑徳大学ビジネス学部 助教授  
2005年4月 愛知淑徳大学ビジネス学部 教授

私の専門は、リスク管理、企業の社会的責任と経営品質科学です。企業活動の質(クオリティ)と企業が直面するリスクに関わる問題を、企業活動全体を対象とした経営品質と捉えて研究を行っています。理系出身にも関わらず銀行という文系中心の世界での勤務経験を活かし、文理融合かつ産学協同のアプローチによる研究を行っています。銀行での信用リスク、市場性リスク、災害・テロなどの突発的な事故に対する危機管理といった各種のリスク管理を担当した実務経験が、現在の研究と教育につながっています。

グローバル化と情報化が進んだ現代の社会では、リスクが増加しています。そのような経営環境の中で、企業は新たな業務を展開し利益を追求するわけですから、今まで経験したことのない新たなリスクに遭遇し、経営品質に影響が及ぶことを考えておかななくてはなりません。「想定外」ではなく、リスクが顕在化しないように、積極的かつ予防的なりリスク管理を実施する必要があります。また、非効率な組織の体制のままでは新たな事業に臨めば、リスクが顕在化する可能性が高くなります。

積極的かつ予防的なりリスク管理と業務の効率化を融合させることが、経営品質を高めることにつながります。

理工学部で身に付けた分析力と創造力を活かしたいと思い、文系出身者中心の銀行に就職し、文理が融合した仕事への取り組みを志しました。私の狙いは的中し、人事部、市場商品開発室、融資企画部、海外企画部などの企画・戦略部門に配属され、最先端の業務を経験することができました。

工作や理科が好きだった少年の夢は、「ノーベル賞受賞」でした。大学教員になってからも、少しずつその夢に向かって歩み続け、五十五歳になる直前に博士号を取得しました。大学に入ることや就職することがゴールではありません。「どうせ駄目だ」と諦めた瞬間に夢や計画は実現しませんでした。なぜなら、実現しない時の言い訳を自分で用意してしまっているからです。人は皆、無限の可能性を秘めているのですから、自分の限界を自分で作ってしまわず、前進し続けることで、一歩ずつ夢に近づくことができるのではないかと思います。



### 上原先生の主要著作

【主要著書リスト(近年分のみ)】

- 『考える力伝える力 実践 論文作成—インターネット、MS Office2007を使った情報分析から文書作成、プレゼンテーションまで—』  
近代科学社 2010年 (共著「第II部 情報分析 3章データの収集 4章データの加工・集計 5章データの表現」33-88頁)
- 『スマート・シンクロナイゼーション—eビジネスとSCMによる二重の情報共有—』  
同文館 2006年 (共著「第11章4節 e-SCMにけるグリーン連鎖からCSR連鎖への動き」226-232頁)
- 『情報リテラシーの応用術』  
近代科学社 2004年 (共著「第4章 Excelの応用操作」126-205頁)
- 『グローバルSCM—サプライチェーン・マネジメントの新しい潮流—』  
有斐閣 2003年 (共著「第12章1節 SCMからe-SCMへ」227-233頁)